HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	直観像の生起メカニズムに関する研究 ： 直観像素質者の視空間記憶能力と脳構造に注目して［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	名畑（新原），理津子
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第12384号
Issue Date	2016-09-26
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/63448
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Ritsuko_Nabata(Shimbara)_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）　　氏名：名畑（新原）理津子

主査　准教授　小　川　健　二
審査委員　副査　教　授　川　端　康　弘
副査　准教授　竹　澤　正　哲

学位論文題名
直観像の生起メカニズムに関する研究
−直観像素質者の視空間記憶能力と脳構造に注目して−

直観像とは，過去に観察した視覚刺激が外部空間に定位され，文字通り目に見えると感じられる心的視覚イメージの一種である。直観像は心理学研究の黎明期から多くの心理学者の関心を集めてきた現象であるものの，その特殊性や希少性から現象報告に終始され，直観像がどのように引き起こされるのかという問いに踏み込むような研究は皆無であった。本論文では，こうした心理学の古い研究テーマである直観像に再び焦点が当てられ，その生起メカニズムの一端の解明が試みられている。具体的には，直観像を持つ直観像素質者の特性を明確化する実験的検討を通じて，直観像の生起過程に関与する認知システムや脳内基盤の特定が行われている。こうした実験的検討の結果，直観像素質者が高い空間情報の処理機構を持つという特性が示され，直観像の生起過程には空間処理過程が関与すると示唆された。

本論文は，これまで逸話的に語られてきた現象の実在性に関する科学的証拠の提供，新しい事実の発見，及び当該研究領域における方法論の確立という 3 つの観点から評価することができる。まず，第 1 の評価すべき点は，直観像の実在性を裏付ける客観的データが得られた点である。特に，主観的意識体験である直観像を持つ者の脳で，構造的変化が生じていることを示した第 4 章の結果は，科学性が乏しいと見られがちな直観像研究の光明といえる。第 2 に評価すべき点は，直観像素質者の特性を空間処理システムに見出し，直観像の生起過程に関与する一つのシステムを明らかにした点である。これは，直観像の生起メカニズムの全貌解明に大いに寄与し，今後の直観像研究の指針になると期待される。また，本論文では，これまでの直観像研究における方法論の見直しが行われ，実験対象者の選出方法の再定義や，スケッチや MRI などの新たな方法を用いた検討が行われた。その結果として，本論文の目的であった直観像素質者の特性が明確化された。したがって，本論文では有用な方法論が提案されたと評価することができ，この点も当該研究領域への重要な成果であったといえる。

以上述べてきた本論文の諸成果は，いずれも，当該研究領域において大きな学問的貢献をなすものであると考えられる。ただ，本研究で明らかとなった直観像の生起過程に寄与するシステムが，直接的に直観像特有の「目に見える」という主観的印象を引き起こすかどうかという点についてはさらなる研究が望まれる。こうした意識に関する研究は，心理学の大きなテーマであり，まだその方法論も確立していない。しかしながら，第 5 章の中では，展望として，具体的検討方法の提案がなされており，本論文は，当該領域の実証研究をさらに進展させる可能性を持つ。

本審査委員会は以上の審査結果に基づき，全員一致で，名畑理津子氏に博士（文学）の学位を授与することが妥当であるとの結論に達した。